

1 クビアカツヤカミキリ被害樹への対策方法

1 伐採・抜根・・・被害樹の伐採、抜根、運搬、樹体処分

(1) 伐採・抜根した樹体は、放置すれば枯れても成虫が出てくるため、細かく粉砕又は焼却、登録薬剤（NCS（2026 登録失効予定）、キルパー40）によるくん蒸により処分し、樹の中にいる虫を殺すことが必要。

(2) 各自治体のごみ処理場の情報提供（あれば）

その他 現地確認のため、伐根した場所がわかるよう、ポール等の目印を立てておいてください。

2 伐採・根覆い・・・被害樹の伐採、運搬、樹体上部の処分、株元の密閉処理

(1) 主幹への侵入が多いので、株元で伐採します。

(2) 伐採した樹体は、上記 1－(1) 同様に処分が必要です。

(3) 伐採後の株元の処理・・・成虫が出る可能性があるため3年間密閉する。



まず、切り株にネットを1重に被せマルチ抑え等で土に固定。

ネット：目合い 4mm 以下



次に、ネットの上に、ブルーシート又は防草シートを2重に被せ、マルチ抑え等を用い固定。



最後に、周囲に土を被せて密閉する。傾斜園は、杭やマルチ抑えのみでも良い。

3 成虫飛散防止ネット被覆・・・被害樹の幹・枝のネット被覆

- (1) ネットの目合いは4mm以下を用いる。
- (2) 最初のフラス排出部から約30～40cm上部に脱出予備穴を形成することが多いため、ネットを巻く場所は、フラス排出部の約50cm上部から地面まで張る。
- (3) 1重巻きでは、噛み切られ脱出される可能性が高いため、成虫脱出防止のネットは2重に巻く。
- (4) 樹体から成虫が出てきた時、顎の先にネットがあると噛み切られる事が多いので、噛み切り防止のため、あまり樹に密着させないようにして巻く。
- (5) ネット上部は、マイカー線等で脱出できないようにしっかり枝に巻きつける。
- (6) 垂らした地面部分は、杭やマルチ抑えで地面に固定する。
- (7) ネット内に新たなフラスや成虫を確認した場合、ネットを外して掘り取りや成虫を補殺する。(黒色ネットの方が中の様子が見えやすい)

その他 被害部の部分切除や部分被覆も有効ですが委託業務の対象にはなりません。



※委託事業の対象ではありません

◎被害の早期発見と生産維持のために、定期的な園地の見回りと、幼虫の掘り取りを推進しています。

掘り取り・・・樹内の幼虫を刺殺又は捕殺

■掘り取り手順概要



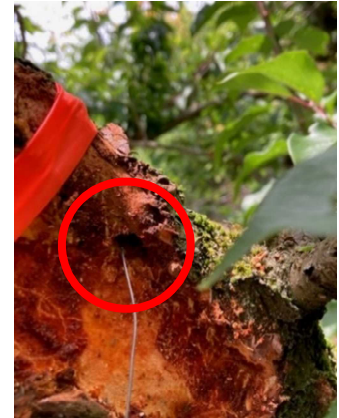
フラスとフラスの出所を探す



フラスの出口にマイナスドライバーを刺す。食害されている部分だと刺さりやすい。



幼虫が小さいときは、樹皮近くに潜んでいることが多い。成長すると幹の中央部へも穴を掘っていく。



木の奥に穴（脱出孔）が開けられている場合は、針金を使って掘り取る。



樹皮近くの小さい幼虫

【その他】

- ・幼虫は、枯れている部分は食害しない。
- ・深い穴（脱出孔）があれば針金で掘り取るか、刺殺する。穴は曲がっていることがあるので、針金を少し押ししたり引いたり、又は回したりしながらできるだけ奥まで入れる。
- ・掘り取れなかった場合は、スプレー式殺虫剤の噴射による殺虫も併せて行う。
- ・地面や枝にたまった古いフラスは取り除いておき、新たにフラスが出てきた場合は再度掘り取りを行う。

2 報告書の添付写真の撮影方法

1 被害報告

- (1) 被害樹 1 本につき、写真を 1 枚以上添付
- (2) フラス等被害と被害樹の全体が確認できるように撮影
- (3) 園地や被害樹が複数ある場合は番号を付けて識別できるように撮影または整理

圃場 2 被害樹②



2 実績報告

- (1) 被害樹 1 本につき、写真を 1 枚以上添付
- (2) 複数の対策（「ネット被覆＋伐採・抜根」等）を行った場合、それぞれの写真が必要。
- (3) 対策した内容の全景が分かるように撮影
- (4) 園地や被害樹が複数ある場合は番号を付けて識別できるように撮影または整理



圃場 1 被害樹①

